教訓乳母冊子丸編

京山老人作

芳虎画

壽翁堂壽梓

今より星霜六百余年のむかし定家卿の御家に嫁き給ひしる阿仏尼大内より女房たちへ女の道を教へのこしたる書に乳母の冊子とて今猶世に残りしるよしの事侍ざるしと乳母に冊子中に名ばかり聞き甚可恐けれど皇八王子の乳母にのめのと初編の新糸より帝子撰方に形ばかりをかき給つる八年の編まて童年ちかくなる安永年額成せしに八一夜ばかりに宿下り立うえ春の新板丸編の一袋ハ乳母がやどさかりの土産ありけり

嘉永六年癸丑春

八十五歳　京山

此書嘉永
壬子首夏
脱稿同年
仲冬上梓
六年癸丑
播布新鼓

山賊壬八父
小猿

農心
西念と
ゆく

仏正八

刀屋の
娘
お花

刀屋
手代
半七

剣術指南
楠多門

仏正八賀
仁太郎

櫻風呂の
湯女
春吉

おとけ
西八が
娘あり

金多屋為左門息子為次郎

俳名
二蝶

教育乳母草子九編發端

二段

四八ものもらひ　ものもらひ　ものもらひ

「とは仁太郎　仁太郎　仁太郎　仁太郎　四八ものもらひ　ものもらひ　ものもらひ　

山賊木ねぎ
ミ五郎
仁太郎
此圖ハ仁太郎が物ぐさを画く

正八がをや
仁右衛門

わとり屋正八

（二）あるやしようかう
「どうさん」おくれたと
せとしのあるふ
まへと後へ
て叶ぬちう
うあるかう
てきやかう
・正八「これ
くあり
どうとく
めぐらく
とうろうと
ふ
ふ
ふ
めあんつれた
ときんとあふ
きうへ
「中」
さん
あみく
しかい
ふやせ
ふ
・正八「ウ
ゆくさ
あの

「つぎ」こんひらくまらりしみかりあ
ゆそもんさあのあふのあゆくし
むまびろふくわさころくたのまろ
てらりて二人りづ且大きゐ男たちぶり
さろをそくめのあそろりさあひえぎで
あらうとまもられるめハありとへいきで
むまびろふくわくまびあさこにりてハ
きものあるゆろそれふつつてこいやどを
かりてうまいものろうせてゆうと
いふさうつひ世ゆくせんより
つこありひいちゆゆりしあそろが
あねぢこゑあうとしいふ大わもく
・正八「それうちそこをあげど
うう・たを「いりくまづ
たうぶんとまがあふ
あろとしいふさゐ
一ゑんもあつめ
せんうこあくこうろの
ちりつけあまとと
あうここをかされこうが
かこあゆふちまうこと
きてこいあごとがあう
とそこうとつまてく
かれくらやのやちりを
きりあまさあうこ
あうめそかれめあのと

「こうあうこうこいのこ
かくしてあくこうろもうそハとは
こうがあの蒙とうくうてあげうこうろ
あれどあまくもうそのとあり又るゆや
かくとうこうこうあづけうまてくりるうち
ちそうがあまくふうこうくあさこんあれうふ
かこうあてうされこうがかのくありがあまま
こんひうさあ大ごうこうけりこうこ（ねづ
ですうこうあうこばけこうこてこさま
又くふあをこれこまうこうすて名とあけて
けあすあハあこのりこふあうすこハ
ゆくのあくこうくてあうあまとこうこく
正八あうくこうろこびこあこていうこく
けくこ人ハあうこうとああつせこれこ
ところてうこうあゆやあうこれこよといふ更（一）

揚ぶろの小春
今ハあるる
正八がもとあ也

刀屋ふう
けんぢゃうちゃん
くまのふたりん
刀屋文代
半七
仁左郎

三段

四 さるぢえ
せいとう三ぐ
九ども一どそ
まぬせ正八
ちそられの

三 ふくこの人ぶとのきちいさ
あかごこたてようけるいあさ
ちそあ一ちろ二ちろのあ
わも上と下とかわらふ
うるも身めつれる世ロは
ありされいたるふとちり
てかぎかうとせのく
ものかわかきそてくせ
バかいあ一たりまれても
せたのちろをきるところハ
しやれを已やとけ正八ロ
ぎきそくらとむあれば
ちらばるかあれりつた
されとかぶぐるいをせ
のくるあもかくあうとそ
むちちあくちくしよう
らの米ちろまつの
ちちうるをせんかのを
てちあくらのかやちう
ちるめ」まいあんかのを
りとくそくく
まちりのかくぎあ
ちとくそくるに
ゆとんかきくそ
「さう仁を
ちとちう
ふの

人くまとの中ふてきさらひねどちの
そのの〆ぐ比い元日のそろ日
ぐもひれはぎとうらうぐつた
さこのまこぞのちゅ〜あ
みぐれぐくあぐき
ろうろんのそで
わぐあそころ
ざくこたのあぐ
ちあ〔ぐ〕ちや
げ
ちゃ
ろん
わ
ざう
ぬを
てのも
ハとあくのの
とくろ火
だちで
あくあ
元日ハ
ちをと
らそぐ
あのとろ
あそもまあ
ぐけまひまるとそれば

六 くちぐも
つまねさくの
ゆとうくさひる
ハさもぐハ武吉の
ちそぐとふとり
ハくさくたぐう
ぐる・元八「をさうぐこ
ハあろくうと二うのでせく
▲もしものちゆく
「もるあつけきき

とあゆく
うくひ
ちとすをとちぐう
とくあさハ四

かくあ
三

四段
仁左郎

五段

ある人やるハ日れあり所のわるくたゞれ、をるところかそくをさそ日うて
ゆふ、ゆふ、ゆふ、

▲さそれにをくもとろののちやう
あきあるあわびひとう
かるあやのうんもの
えびらへとかたちきのうそちくて
おてまづまづ大きくとかぎて
なるぶなどやのりりうくでも
のぶさぎとおもふらぬふ
あをとぶあてかとゆく
つひとそう
ひくく
一ねんあて
ちうく
えびうく
はまちう
しげ
かうり
ろ
ゆて
わを
人の
ろのふ
だまり
こまれ
らるハ

(一)

(二)

(三)

(四)

乳母冊子九編上終

根源實紫

十二編より十五編迄 仙果作 追々責出し申し 國貞画

一代紀聞

十編桜手兒松多崎の邸にて女中小島等に嘲弄せらるる憤ふ堪ぜず入水せんとして實父壽祖に留らる　紫式部野洲子鳥兒と共に北野詣の折柄大藏種村に遇らるゝに到りて　木暮豊一郎救免に遇ひ近江に歸る途中赤目に知る親に會ふ條あて一味の部て花麗なる物語　十編紫式部の危難を救ふ種村本心を失ひ式部と合歓の可笑味此事　式部大内裏と二野洲子壽祖の祈らるる奇病に苦しみ終に死に至る等の悲哀多し　十編鳥兒式部を姉の讐として書を加へ大貳三位の誤生桜手兒嫉妬の惡念宣孝に殺さるる宣孝も金創重りて落命又北越に赴きる性規の事を細に記し少將の君の貞操を說く十四編下の豊碧に別に記す

芝神明前　喜鶴堂主人敬白

敬艸乳母冊
引九編上
京山老人作
玄斌拔

乳母の冊子九編

京山作

よし虎丸

仲遠曲五郎

教草乳母冊子九編下

京山作　歴世女装考

全四冊

六段

其三

仁左郎

七段

かくてある日おそるべきにたるくらがりのもとにてあらべるごとくぐとなるはたらきにたるごとくくろがねのさもとなれるはらくあるの町人のむまごとなるてうれくらうれやまうもんあるうもんあるいとりあるいまのおそでやきうつかたの下さりもち月ぞくのおのあらごらくのまばしくぶくときいろくのもとこ多りさてまこのくくのもてあるしくうらくのちやさんふあをつけ

「ものくろくらくのちやさんとこくをあかくさんといひあくうかわるわるをてうちもろもおもとこ」「様ふろのくををてはあり。「それの二てふさんおくうぐさうまた。二てふ「さくくふろのてきけばさるふのえしくとやらものがあるくうくときまくてもあふふらけを」「とあるおふくれくさのあるくしいくかんあとトらあくあくとあるさくうふきくふてくくるをふのちこれをたこまくたとどやうあうけのようこけちやくとまくをば

あるゆ　がくふ
ひとをだんなとる

たるを「あるくふとひくくれのふをんあり。もるをにたるくをゆくひやくくえんどえくきくたんあまるくくあくすあくまませとくくふをくさくせ

「三てふさんあるくいあるくくふをくさまもくくさで

あのあるにこりやらくくられまさん

「そりやあるをちや「されくでくさうまくくく

仁太郎
あそんる

二蝶
光悦作
黒樂茶碗

八段

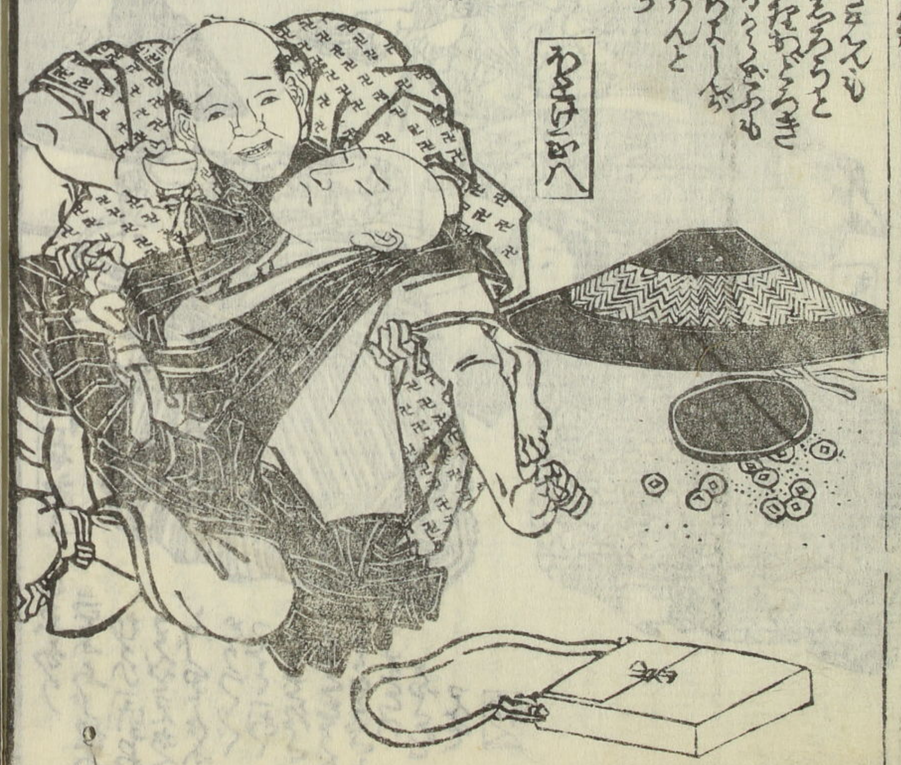
二蝶

茶道具屋
冨士見屋
理平

仁右衛門

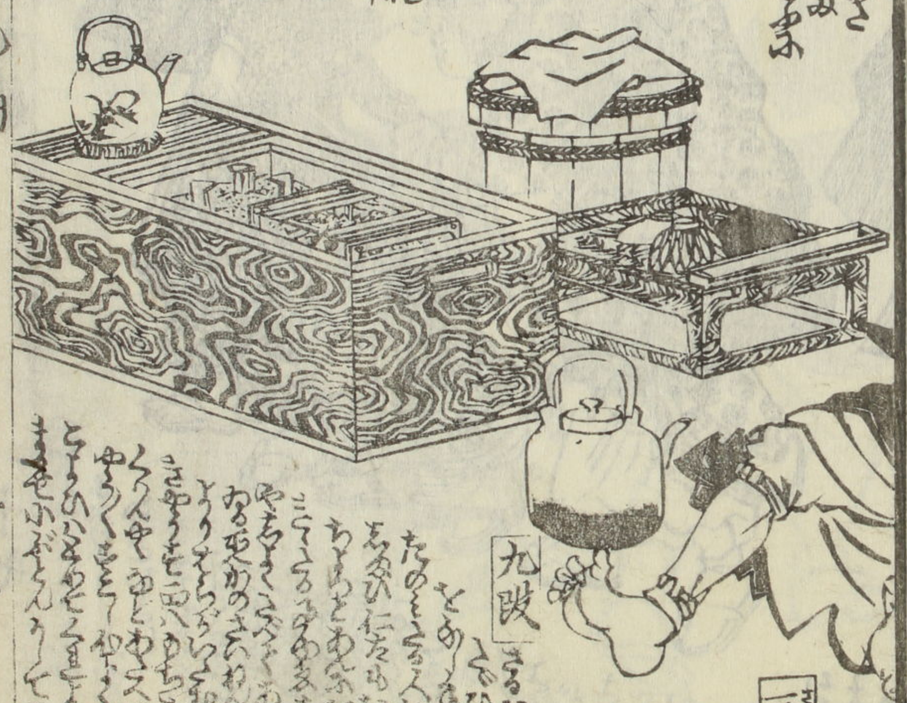
あそび

「つき」たきつぶてひとつゆるもむりのうらにかきまんえも
くるとうとうそつまぶるこ[illegible]。こてふ「けんぐそうろう
うらたのまれてとそ立直ぐとよふ」をわどうらき
「かうらふかめどもやうるどたわうぐさるうらぐふも
あられへ。こてふ「あるのまんうらあつらぐよしが
なるのきつけのまうらあうちとけロかふつうろんと
もふのふうりう会せるちやうんゆ段でばあのう
「さかうさふうもきあせん」ところで
あまぐのりふもハこてふくかけロきぐく
うさうそうのちやうんと一あ一分で
ろうぐうことうるつ」ぐうでロ切のちやのあん
つううさとうれてくわいぶんハうろんゆえ
ぶまうんどきこうふかりせとまたと利分
しとあれうあうらいさまればかりく
くちきうにもつうられうそれで
きこうろにあひこうさ。ふうと「四む
せんえんかんいんと」まうさと
仁をふむうひ「ゴうくふうぐうを理平
とのハちやぐうろぐやのちうられば
。仁を「かれうくあるいきうまうさ
理平さえでどぐうまきうふうを
「ぶ業ゴんハこまやこまのあのでんあい
ふうきく。あきうとうりのうけぐうう
うこうぐあ会こまハ十えあでかりまきう



わきけこの八

ふううひあうくあうくあうらひとうさ
ふうあるトぐんふあうらぐ一十五あ
仁をハきうありあるるハトあ二てあふ
のうひ一のくあんにあうせうく
てくとけ五あふくふハあのの
ちちあうくうきて二てふハ
ふあの利分ちうゆくうきて
ふかれうるとぐ。ありあよ
二てふ一あ下かふくかぐるハ
さまぐくかれぐやのむきをこ
かうそこをうくりうとハいそあ
さまぐでもこをかれのちハ
ふりぐ[illegible]をとうきふとあるあ
人ゆもかうそこうふくふくあれ
どうもこうらゆきゆふあふ
けかぐんどかあうりこうつけ
こあふう。▲さてこをとうり
あるるハつこうこをえきくふ
ちうる二てふかれぐハふのちゆく
あこーをとうりちうるうにをハ
こをゆくぐがけゆふこをえて
のあぐらくをうちあうく
ぐういぐこうるいせれのぜんも
ひけて。ふあくこえさうろう



九段

さるぐぐんぐハ
こをひとうこぐ
とあうこあうろふ
たのこをうくあけうこゆを
こをふひ仁をあるもをるもかあ
ちうひとあふぐうらすく
こてうるゆあをこをこく
ゆちうくうふくうゆちうふうこを
あるゆあのさいあんきこうを
こうをこうらうらうゆをこうく
こをゆうこを四ハゆちあゆこを一
くうんゆ。ゆこあこをていうこう
ゆうくこをこ一ゆくうこあくあ
こうのいこをゆこうこをこうこうふ
ままゆふぐこんうこうこうハ九段

其八二

仏二八

楠たゝん

十段

仁左部

根源實此紫　笠亭仙果作　十二編 十三編 十四編
梅蝶樓國貞画

新增補西國奇談　為永春水作　八編 九編 七編
同　画

琴聲美人録　山東庵京山作　十六編 十七編 十八編
歌郎　立川齋國鄕画

松梅竹取物語　初編 二編　楽亭西馬作
梅蝶樓國貞画

娘庭訓金鶏　山東庵京山作　三編 四編 五編
同　画

花兄弟陸奥名所　笠亭仙果作　初編 二編
同　画

地本繪草紙圖扇問屋　芝神明前三嶋町角　佐野屋喜兵衛板

A13
4450
9

へ13
4450
9